

令和4年度決算の常任委員会における審査の主な内容

議会では毎年度、一般会計・特別会計などの各会計決算について、予算目的に沿って適切に執行されたかどうかを審査します。本年度は、教育厚生、環境経済、建設水道委員会が10月27日、30日、31日（31日は教育厚生委員会のみ）、総務委員会が11月6日、7日に決算審査を行いました。

概要

一般質問

総務委員会

各款にわたる給与費において、職員の休職や早期退職の原因究明に向けた取組状況について慎重に審査しました。

次に、総務費において、自治会加入率が減少していることから加入促進を図るための取組状況、各総合事務所が地域別に行う事業に係る地域振興費の予算配分の考え方、ブリックホールの稼働率やその他の文化施設の利用状況などについて慎重に審査しました。

その結果、令和4年度の未収金となった稲佐山公園の指定管理に係る納付金については、指定管理者と行政との連携不足に起因していると考え、全庁的に様々な取組を行ってほしい、また、本件は、部局間での意思の疎通が図られていないこと及び議会へ適切な報告や説明がなされなかったことから、今後このようなことがないように全庁で共通の課題として捉え、スピード感を持って行政運営を行ってほしいとの要望を付した賛成意見が出され、異議なく本決算を認定しました。

環境経済委員会

衛生費において、ゼロカーボンシティ長崎の実現に向けた再生可能エネルギーの利用促進に係る市民への周知啓発の現状、公共施設への太陽光発電設備の設置促進に向けた取組状況などについて慎重に審査しました。

その結果、一部委員から、MICE推進費については、人口減少が進んでいる中で、交流拠点施設の整備よりも、子育て支援の充実など、定住人口対策として取り組むべき事業があることから認められないとの反対意見が出されました。一方、長崎市地球温暖化対策実行計画において設定している市民による自発的な環境行動の推進に係る野心的目標を達成するための仕組みを再検討し構築してほしい、公共施設再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査委託について、各部局や民間事業者と積極的に連携しながら、あらゆる方向から可能性を探り、目標達成に向けて推進して欲しいとの要望を付した賛成意見が出され、採決の結果、賛成多数で本決算を認定しました。

教育厚生委員会

民生費において、ICカードによる高齢者交通費助成方法の在り方や病児・病後児保育施設が1施設閉鎖になったことによる影響と今後の対応策などについて慎重に審査しました。

その結果、一部委員から、学校給食センターについては、各学校の給食室で給食を作る自校方式などを充実させる方向に舵を切るよう求める立場から認められないなどの反対意見が出されました。一方、県外原爆・平和展を大学の学園祭などで開催するなど、次世代の平和の後継者づくりに取り組んでほしい、全天候型子ども遊戯施設周辺において、一部の街路灯などに老朽化が見受けられるため、早急に対応してほしい、子育て支援は、本市にとっても重要な施策であることから、その充実を図るため部局横断し、全庁的に取り組んでほしい、無責任な餌やりと捨て猫防止に向けた周知徹底や他都市の施策を参考に殺処分ゼロに向けて取り組んでほしいなどの要望を付した賛成意見が出され、採決の結果、賛成多数で本決算を認定しました。

建設水道委員会

土木費において、相続登記の義務化などの法改正が今後の用地交渉に与える影響の見通し、長崎スタジアムシティの完成を見据えた周辺街路などの環境整備に対する考え方、ながさき住みよ家リフォーム補助金で不用額が生じた理由や令和6年度以降も補助を継続する見通し、まちなか町家等活用助成制度における効果の検証状況や課題に対する今後の取組などについて慎重に審査しました。

その結果、周辺地区の都市計画道路や車みち整備などにおいては、年次的な計画をしっかりと立てて事業を進めてほしい、市の施策によって住宅コストの高騰が抑制されてきたと市民が実感できるように令和6年度以降も施策を推進してほしい、まちぶらプロジェクトにおける町家について、長崎の歴史や雰囲気を生かしたまちづくりを加速させてほしい、本委員会が出された意見を踏まえ、各事業における優先度を十分に精査し、効率的かつ効果的な事業執行に当たってほしいとの要望を付した賛成意見が出され、異議なく本決算を認定しました。

常任委員会の
主な審査内容

議決結果

令和4年度決算の
主な審査内容

令和4年度決算
議決結果

令和5年の
長崎市議会

議会の動き、
人事、陳情等